

「夜須高原長期チャレンジキャンプ」

～ 非日常の生活、自然・直接体験にトライしよう ～

1 趣 旨

子供たちが SNS やゲーム、テレビ等のメディアに依存した生活から離れ、テント泊、野外炊飯、カヌー・ヨット体験、スタードーム制作など様々な自然体験活動を通して、人間関係能力や自己肯定感を育成する。

2 主 催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3 連携機関

福岡県立少年自然の家「玄海の家」、勝浦浜海洋スポーツセンター

4 期 日

平成29年8月13日（日）～8月20日（日）〈7泊8日〉

5 会 場

福岡県立少年自然の家「玄海の家」、勝浦浜海洋スポーツセンター、国立夜須高原青少年自然の家

6 対 象

小学校5、6年生 中学校1～3年生 計42名

7 参加者

○参加人数：42名

・小5：16名、小6：15名、中1：8名、中2：2名、中3：1名

○学生ボランティア：9名

8 日 程

○8月13日（日）福岡県立少年自然の家「玄海の家」

（午後）開会式、仲間作りレクリエーション、テント設営、野外調理（BBQ）

○8月14日（月）

（午前）野外調理（朝食）、カヌー体験

（午後）海水浴、野外調理（カレーライス）

○8月15日（火）福岡県立少年自然の家「玄海の家」

（午前）野外調理（朝食）、歴史・自然散策サイクリング（新原・奴山古墳群、大峰山自然公園等）

（午後）歴史・自然散策サイクリング（新原・奴山古墳群、大峰山自然公園等）、
野外調理（焼きそばライス）

○8月16日（水）勝浦浜海洋スポーツセンター 国立夜須高原青少年自然の家

（午前）野外調理（朝食）、テント撤収、サイクリング（勝浦浜海洋スポーツセンター）

ヨット・カヌー・ロープワーク体験（勝浦浜海洋スポーツセンター）

（午後）国立夜須高原青少年自然の家へバス移動、オリジナルメニュー材料買い出し（食彩館）、
テント設営、野外調理（オリジナルメニュー）

○8月17日（木）国立夜須高原青少年自然の家

（午前）スタードーム模型作り

（午後）竹の伐採、搬出、竹割り、竹の面取り

- 8月18日(金) 国立夜須高原青少年自然の家
 (午前) 竹の採寸作業、穴開け作業等
 (午後) スタードーム組み立て
- 8月19日(土) 国立夜須高原青少年自然の家
 (午前) 竹箸・竹食器作り、流しそうめん竹準備
 (午後) 選択活動(林間ボブスレー、草スキー、クラフト(すべラップ作り))、野外調理(バーベキュー)、キャンプファイヤー
- 8月20日(日) 国立夜須高原青少年自然の家
 (午前) テント撤収、体験スピーチ準備(全日程のふりかえり)
 (午後) 体験スピーチ発表会、閉会式

9 活動の実際



【テント設営】



【カヌー体験】



【海水浴】



【サイクリング】



【野外炊飯(カレーライス)】



【ヨット体験】



【ロープワーク体験】



【オリジナルメニュー買い出し】



【スタードーム模型作り】



【スタードーム竹の切り出し】



【スタードーム竹割り】



【スタードーム竹の面取り】



【スタードーム竹の採寸】



【スタードーム竹の組み立て】



【スタードーム竹の立ち上げ】



【スタードームのフレーム完成】



【スタードームの完成】



【キャンプファイヤー】

10 感想（体験スピーチ原稿より）

- 自分はこのキャンプで自然のすごさを感じました。夜中に大雨や雷雲のことを聞き、体育館へ避難しました。なかなか眠れませんでした。しかし、朝になると晴れていました。風が吹き、気持ちよく海洋スポーツに取り組むことができました。友達と「自然はすごいな。」などと、自然について話しました。
- テント泊やいろいろな活動の準備で、自分のことは自分でする、みんなに迷惑をかけないことを意識して活動することができ、精神的にも成長したように感じます。
- スタードームの材料となる竹を加工する際、みんなで声を掛け合って、協力して行った。竹を編み、途中で「せーの。」と一斉に立ち上げた時は、とても達成感を味わえた。
- 僕がこのキャンプに参加して学んだことは、みんなで協力したら、一人では大変なことも楽しく早くできるということです。また、いつも親がいろいろしてくれているので、そのありがたみを感じました。

11 成果

- 福岡県立少年自然の家「玄海の家」や勝浦浜海洋スポーツセンターでのカヌーやヨット体験、国立夜須高原青少年自然の家でのスタードーム作りなど、児童・生徒にとって魅力的な活動を仕組むことで、参加者の興味や関心、意欲を引き出すことができた。
- 活動場所を2箇所にし、第1ステージ（海の生活）、第2ステージ（森の生活）と銘打つことで、気持ちを切り替えて活動できていた。
- 7泊8日間のテント泊や、朝食を含めた野外炊飯活動を通して、協調性や関わり方の向上を図ることができた。班付きの学生ボランティアの言葉掛けや指導も適切であった。特に、後半になるほど、上学年の生徒からの言葉掛けや関わり方が優しくなったり、班全体の活動もスムーズに進んだりする場面が多く見られるようになった。
- 雨や雷など、天候が不順であった。しかし、そのような中で活動したり、避難行動をとったりすることで、自然の良さや厳しさなども実感させることができた。